

景況レポート

(9月分・情報連絡員80名)

非製造業は再び景況感が後退

【概況(全体)】

9月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.8%(前回調査8.8%)、「悪化」が31.3%(同28.8%)で、業界全体のDI値は-22.5となり、前月調査と比較し2.5ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、非製造業では0.9ポイント東北・北海道ブロックを上回ったものの、全体及び製造業のDI値は全国及び東北・北海道ブロックを下回り、低調に推移した。

【業界別の状況】

業界別では、鉄鋼・金属及び一部の卸売業、建設業で業況の好転割合を維持しているものの、小売業での悪化割合が増加したことで景況感が後退した。

なお、全体の景況感は売上高で改善が見られるものの販売価格の上昇、在庫数量を始めとした各調査項目で低調に推移し、天候不順による需給不調、需要の減退や個人消費の低迷等により景況回復を感じられない状況が続いている。また、物価上昇や地政学リスクに起因する原油高に加えて、さらなる人件費アップや送料の値上げ動向等も出ており、全般的な経営コストの負担増が一層顕在化している。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-22.5	-17.0	-22.2
製 造 業	-21.8	-15.3	-19.5
非製造業	-22.9	-18.4	-23.8

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】



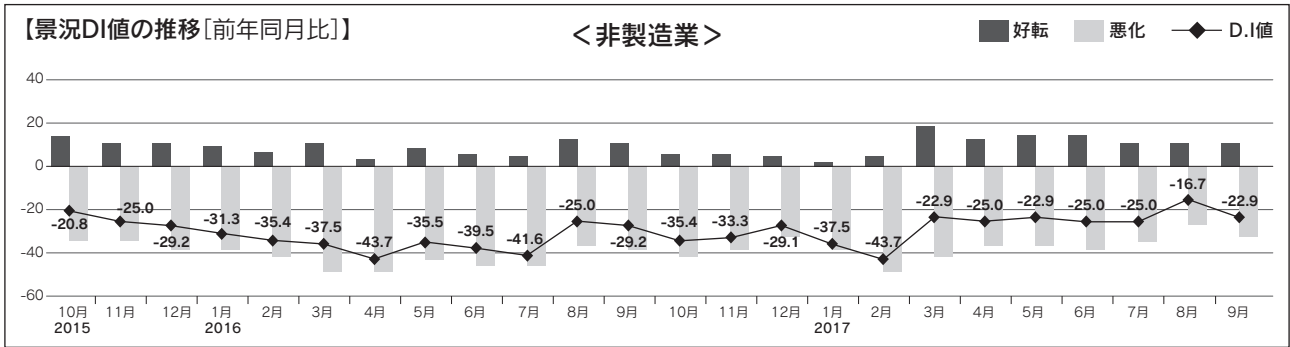
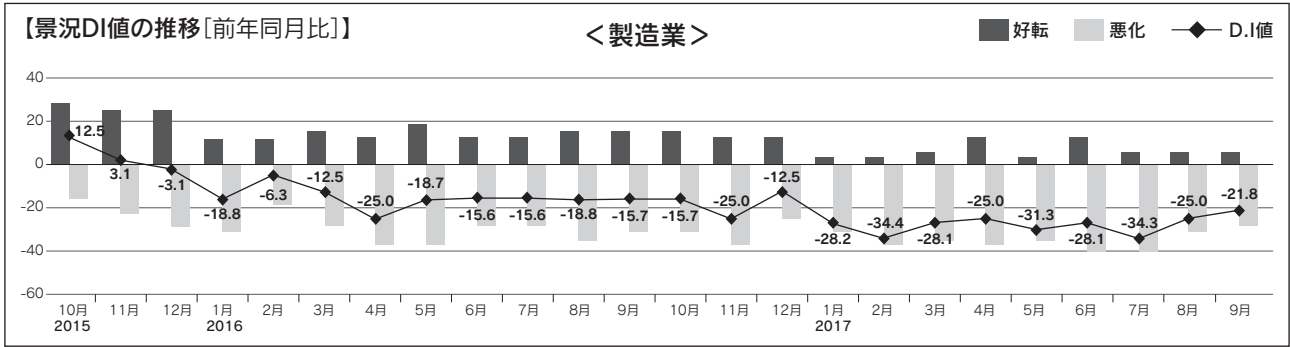
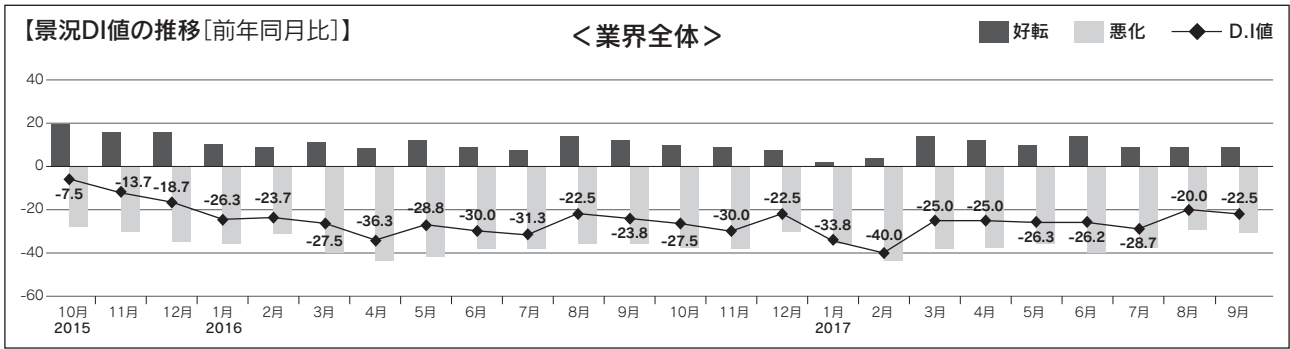
【天気図の見方】
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	季節の変わり目で動きが鈍く、売上は低迷した。県外大手の進出で県外業者同士が競争し、県内の業者ははじき飛ばされている。
食 料 品 (菓 子)	「ねんりんピック」で一時的に忙しかった業者もいる。観光地の人出は多かったが、直接の売上には結びついていなかった。
食 料 品 (精穀・製粉)	イベント等により一時的に受注が伸びる時期はあったが、限定的で全体を押し上げるまでには至らなかった。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	今年は秋冬物の発注が少ない。8月の天候不順の為、店頭でのセールが不調、秋物の動きがまだ無いため、アパレル各社が在庫調整に入ったと思われる。
織 維 工 業 (織 維)	小売状況が低調で、受注量への影響が気になる。確かなことは1品番当たりのロット数が少なくなりつつあり、生産性の低下が懸念される。
木材・木製品 (一般製材)	4月から9月までの製品販売量は、九州地区の品薄感の影響もあり、前年比増加(106%)している。製品価格は、価格改定で角柱・羽柄材が500円～1,000円/m ³ 値上げとなった。一方、原木価格は、出材量の不足感から500円/m ³ 値上げの価格改定となり、製材工場の収益面は、依然、厳しい環境となっている。
木材・木製品 (素材生産)	合板生産量は、国産針葉樹合板の引き合いが好調なことから各合板工場はフル稼働となっている。合板原木の消費については、フロア材合板の生産を優先していることで、トドマツ等県外産の原木の消費は増加しているが、秋田スギ原木の消費は横ばいで推移している。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	9月の出荷数量は、前年比93.0%、4月～9月累計で96.0%となった。昨年、過去最低の出荷量となったが、今年度はさらに下回ると思われる。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	各社とも年末までの物件を確保しており、100%以上の稼働で推移している。来月以降の受注物件も見込まれている。
一 般 機 器 (金属加工)	受注面は引き続き好調に推移、県外からの受注打診も依然に比べ多い。材料の鋼材が値上がり傾向にあるが、売価への転嫁が出来ておらず、利益面は従前同様、厳しい状況にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (古紙) 価格が昨年同期よりは高いものの新聞、雑誌は前月より2～3円下がっている。台風や雨の影響もあり、回収量は昨年比7.4%の減少となった。

小売業 (ポイントカード) 上期6ヶ月間で一度も昨年同月比プラス月が無かった。9月にあつては10.5%減となり、今年度で一番悪い状態にある。

小売業 (石油) ガソリンの小売価格は、1ℓあたり130円10銭で前月比1.3円の値上がり、軽油は1ℓあたり111円80銭で前月比1.2円の値上がりとなった。原油価格が値上がりし、為替レートが円安に振れたことによるものである。

商店街 前月比ほとんど変わらず低迷の一途である。前年同月比でも不変としているものの内容的には悪化の状態である。(秋田市)

天候不順が商売に影響を与えている。食品、衣料、飲料において売上が伸び悩んだ。(鹿角市)

サービス業 (自動車整備) 9月の自動車検査台数実績では登録車が6.5%の減少、軽自動車は5.2%の減少となり全体では前年同月比で5.9%減少した。ただ、上半期の累計台数は前年同期比2.8%の増加となっている。

サービス業 (旅行) 国内83.1%、海外101.9%と先月の低調からは脱出した感がある。ただ、10月は選挙が行われることから、実施予定の法人団体ツアーの延期が数件発生しており、取り扱い減を危惧している。

建設業 (一般建築) 公共工事、民間工事ともに多忙となっている。公共工事では監督員不足、民間工事では職人不足が出てきている。(中央地区)

建設業 (電気工事) 一般住宅の受注件数は伸び悩んでいる。ハウスメーカーの住宅件数が伸びているようだが、一般工務店の受注件数減少の影響で電気工事店の経営状況は苦しいようである。(県南地区)

運輸業 (トラック) 貨物もようやく米の輸送が始まり、動き出した感じがする。(中央地区)